

福祉文教常任委員会審査報告書

平成 29 年 6 月 19 日

飯綱町議会議長 寺島 渉 殿

福祉文教常任委員会委員長 黒柳 博子

本委員会に付託の事件は、審査の結果、下記のとおり決定したので会議規則第 77 条の規定により報告します。

記

事件番号	件 名	審査の結果
請願第 3 号	北部高校の 35 人以下学級の実現を求める意見書を県知事に提出するように求める請願	採択
請願第 4 号	「義務教育費国庫負担制度の堅持」を求める請願	採択

次に本委員会の審査の経過及び主な質疑、意見について報告します。

(赤文字のみを報告)

○請願第 3 号 北部高校の 35 人以下学級の実現を求める意見書を県知事に提出するように求める請願

質疑①：北部高校は地域高校と言っているが、飯綱中学校からは何人くらい行っているのか。

回答①：今年度は各学年 20 人を割っており全体で 47 人である。信濃小中も 50 人程度である。

質疑②：35 人規模である必要は何か。

回答②：学校再編があり、40 人に固定して割り算し、学校を残していくという今の考えを変えていかなければならない。

質疑③：私立高校はその計算の枠に入っているのか。

回答③：入っている。県の姿勢では公立については減少する部分をパーセントで示しているが、私立は経営があるということから遠慮がちで、公立がそれを被る形となっている。

質疑④：地元出身の生徒が少ない理由は何か。

回答④：答えは出ないが、都市部の進学校へ生徒が流出する傾向があつてこのような状態になっているのではないか。

質疑⑤：長野市から大勢の生徒が来ている。それは高校が努力した結果なのか。

回答⑤：長野市への流出があつて、逆に長野市から押し出される形でこちらへ流入してきている状況である。ただ、特別に支援を要する生徒も北部高校に来ており、受験指導一辺倒をやっていけばいい状況ではなく、まさに少人数学級の学習が大事で、これから生徒が減少していく中でこそ取り入れたい。

質疑⑥：学校、PTA から請願はないのか。

回答⑥：毎年別の形で4月中に県へ請願している。

質疑⑦：北部高校だけが35人以下学級なのか、30人以下で全県一斉がいいのか。

また、30人以下学級にすれば学校を減らさなくてもよいとの説明があつたが、30人以下にするには県の経費はどのくらい必要なのか。

回答⑦：30人学級を全県一斉でやって欲しいが、県の財政から一度にそれは出来ない。当面は、現状維持が難しい必要度が高いところからというのが全県での取り組みとなっている。また、全県の学校を30人規模にしたらいくらかかるかは試算していない。

質疑⑧：「学びの改革の基本構想」が第1期から変わってきている。説明してもらいたい。

回答⑧：北部高校は、中山間地存立校に位置されるのではと思われる。

二学級募集になった時点から検討を開始して、全校生徒が160人を切った時点で再編の対象となる。再編対象となった場合の選択肢としては、募集停止、他校との統合、キャンパス校化、また「中山間地存続特定校」といって一学級でも残すという特定校に指定するものがある。そのような中、可能性として北部高校は「中山間地存続特定校」として地域の支援を受け、一学級でも残す特定校に指定されるのではないかとと思われる。

今回は都市部校が非常に危機的で、六学級が標準で再編の下限が五学級。現在すでに六学級、五学級の学校がすぐさま統廃合の対象となり、今回は都市部を重点においたものになっている。

県では、立地を活かした学校として、都市部校は大きな学校で先生が多いので専門的な学びが出来る。中山間地校は、大きな学校ではないが一人ひとりに目が行き届く。大学に進学するなら先生が多く専門的な学びが出来る学校がよいとなると、もっと中山間地校から都市部校への流出が進み生徒の減少が加速すると思っている。地域懇談会には、「中山間地校にいても、進学できる先生の配置や教育条件にしてください」と、この秋以降に地域から請願を出していただきたいと思っている。

中山間地校は学級数では緩和されているが、内容の部分では危機的な状況が引き起こされるのではと懸念している。

質疑⑨：現在の先生の配置は。専門的な学びは。

回答⑨：地域が特色として強くでている。地学や政治経済というのではなく社会や理科系が中心となっている。

質疑⑩：飯綱中学校から進学コースにはどのぐらいいるのか。

回答⑩：今資料を持ち合わせていないが、飯綱中学校と信濃小中学校からの生徒は非常に進学の意識が高い。

討論：なし

採決の結果：全員賛成で採択とした。

○請願第4号 「義務教育費国庫負担制度の堅持」を求める請願

質疑①：どの部分について負担率を3分の1から2分の1に還元したいのか。

回答①：教職員の給与費。

討論：なし

採決の結果：全員賛成で採択とした。